

資料提供

(県政・南部同時)

世界農業遺産「琵琶湖システム」の魅力を知ってもらうため ルートマップを初めて学生さんと作成しました!

このたび、琵琶湖博物館では来館者が「琵琶湖システム」に関連するトピックを琵琶湖博物館の展示から学んでもらえるよう、龍谷大学農学部との学生と共同で館内のルートマップを作成しました。

作成したルートマップは、琵琶湖博物館のホームページで公開します。

★ルートマップについて

- ・ マップのタイトル「-湖と人が織りなすものがたり- 琵琶湖システム」
マップのタイトルも大学生の皆さんと考えました!
- ・ 公開時期 令和6年3月22日(金)～
- ・ 入手方法 琵琶湖博物館 web サイトの下記 URL から閲覧・ダウンロード可能
【<https://www.biwahaku.jp/exhibition/tool.html>】

※印刷物の配布は行いません。各自のパソコン・携帯端末からご覧ください。



2階マップ

※この案内図は、龍谷大学農学部食料農業システム学部の皆様と協力して作成しました。

-湖と人が織りなすものがたり- 琵琶湖システム

世界農業遺産に関するコンテンツを巡るには、次の順序がお勧めです。

① C 展示室 (2F) → ② 水族展示室 (1F) → ③ B 展示室 (2F)

時間に余裕があれば、次の展示も見てみよう。

④ A 展示室 (2F) ⑤ 屋外展示 ⑥ 大人のディスカバリー

環境学習船「うみのこ」

① いまと向き合う～琵琶湖から広がる共生の環～

C 展示室 琵琶湖を取り巻く自然環境と農林水産業の関係について下流域から遊んでみていきましょう。自然と共生する暮らしや、メカニズム、安全に取り組む人々の姿が見てきます。

C1	琵琶湖へ出かけよう	自分の住んでいる地域と琵琶湖の繋がりを見てみよう。豊かな湖を保全することが多くの人の暮らしを守ることに繋がっています。
C2	ヨシ原に入ってみよう	湖岸のヨシ原は、多くの生物の住みかです。人にとっては、漁業の場でもあり、刈取ったヨシは、工芸品や肥料にも利用されています。
C3-1	田んぼと人との関わり	魚のゆかりご家庭は水田に湖魚を呼び戻そうという取り組みです。この取り組みは、地域の人の活動によって支えられています。
C3-2	湖魚の田んぼの生き物たち	田んぼでは豊かな生態系が生まれ、多種多様な生物が生息していると言われています。その一部を見てみましょう。
C3-3	田んぼに暮らす人々	田んぼの環境を守りながら暮らしを続けています。後半には琵琶湖システムのジオラマも展示しています。
C4-1	川と琵琶湖	琵琶湖と川の関係について見てみよう。洪水などの自然現象とダムなどの人工物との関係について大切な役割があります。
C4-2	琵琶湖を囲む森	琵琶湖の周りには天然林と人工林があります。川と森、そしてそこに住む生物たちと人との関係について考えてみましょう。豊かな森は多様な生き物たちに生息環境を提供し、同時に琵琶湖に良い水を供給することに繋がります。狩猟では森を守る活動について紹介しています。
C5	1964年 農村の暮らし	1960年代の琵琶湖周辺の様子が見られます。水と暮らし、生き物と暮らしがどのように関わっていたか調べてみましょう。

② 水族展示室へ

④ 古代の暮らし～遷徙する自然～

A 展示室 琵琶湖地域固有の自然や文化の源泉を学んでみよう。

A2	うつり変わる湖	琵琶湖の美しい立ちを学んでみよう。琵琶湖は今よりもっと豊かな地域で誕生しました。
A4	うつり変わる生き物	琵琶湖地域に暮らす生き物も時代とともに変化してきたことが分かります。
A5	気候と森	変化する気候と森 気候変動の中で森の役割も変化してきました。そのことは琵琶湖の湖底の化石からも知ることができます。
A6	琵琶湖の美しい立ちを学ぼう	変化する大地、変化する気候、変化する生き物、湖が守る大切な自然を守ることが大切です。

③ B 展示室 琵琶湖地域の自然を開拓し、農林水産業が発展し、そこに独特の文化も育まれていきました。一方で様々な課題に直面し、そこで様々なルールが生まれてきたことを知ろう。

B2	森をむらく	過去の時代の山の資源利用についてジオラマを通して知ることができます。
B3	森をつくる	過去には過度な資源の採取により山が荒廃し、これにより洪水被害が深刻化した時期もありました。そのため、近代においては砂防対策として木が植えられ、山は再び緑で覆われるようになりました。
B3-1	水田に生きる	琵琶湖周辺のかつての早稲作のスタイルをジオラマを通してイメージできます。また、水田は、琵琶湖を代表する景観です。その水田の手入れが農家によって行われてきました。湖に向けて実際に設置された水田の設備は、琵琶湖博物館のランドスケープも再現しています。
B3-2	水田でせせぐ	琵琶湖では様々な種類の鳥が暮らしています。そのため、漁業にたぐった鳥の種があります。
B4	湖を使う	琵琶湖の水は水田にも使われ、農地の水不足の解消にも大きく寄与してきました。
B5	人をむすぶ 水田の顔	コミュニティや生活を維持するためのルールや慣習には、農業、漁業、風土管理などを特徴的に伝えるさまざまな要素が含まれています。これらのルールや慣習には、先人たちの知恵が織り交ぜられており、その歴史を垣間見ることができます。
7F		湖の空間を機能的に創出したテーブルがあります。人と自然の関係がよくわかります。

1階マップ

5 屋外展示 フィールドに出てみよう！

樹冠トレイル 鳥の目線で森の中を歩いてみよう。樹冠レベルから自然観察が楽しめます。実際に設置されている木を見ることが出来ます。

生活実験工房 日常空間を疑似体験できます。季節に応じた農業体験や生き物観察会を実施しています。

※この案内図は、龍谷大学農学部食料農業システム学科の指導と協力で作成しました。 琵琶湖博物館

- 湖と人が織りなすものがたり -
琵琶湖システム

レストラン「にほのうみ」
ブラックバスの天婦羅やフナズシもたべられます。

琵琶湖の天婦羅

6 おとなのディスカバリー
琵琶湖周辺の景山に生息する生き物のことをもっと調べてみよう。

おとなのディスカバリー

世界農業遺産に関するコンテンツを巡るには、次の順序がおすすめです。

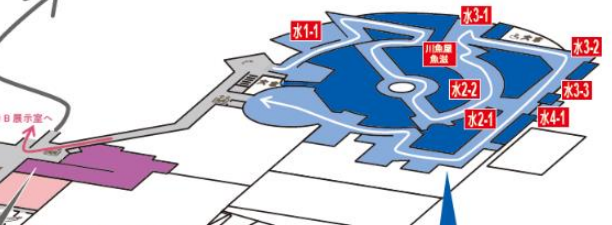
① C 展示室 (2F) → ② 水族展示室 (1F) → ③ B 展示室 (2F)

時間に余裕があれば、次の展示も見てみよう。

④ A 展示室 (2F) ⑤ 屋外展示 ⑥ 大人のディスカバリー



1F



2 水族展示室 琵琶湖の固有種や生態系の豊かさを知ろう。水族展示室で琵琶湖の固有種や生態系の豊かさ、文化や暮らしを感じ取ろう。また、保全のための取り組みを知ろう。

水1-1	内湖や近湖にすむ生き物たち	内湖や近湖にすむ生き物たちを覗いてみよう。
水2-1	暮らしの中の魚たち	私たちの暮らしの中で見られる多くの生き物たちがいます。それらは琵琶湖地域特有の文化とも深く関わっています。
水2-2	運れてこられた生き物たち	赤米産は在来種産卵の産卵の一つです。琵琶湖にもその産卵が存在しています。
水3-1	川魚産「魚産」	琵琶湖の魚がどのように調理されているか見てみよう。滋養食品の料理もあります。
水3-2	下流域の魚とヤナシ	春から夏に琵琶湖湖底に河川でみられるヤナシが産卵しています。季節によって展示される魚の種類が変わります。
水3-3	河川中流域の生き物たち	琵琶湖流入河川の中流域をイメージした水郷には琵琶湖内では見られない多くの魚たちがいます。
水3-4	河川上流域の生き物たち	豊かな森林は魚たちを育み、それはまた琵琶湖への水となり、琵琶湖は森林によって育まれています。
水4-1	琵琶湖の水鳥	本島から上り琵琶湖の産卵は大切な生態系です。1993年にはラムサール条約の登録地として登録されています。しかし、環境の悪化で数が減っている種もいます。



★作成の経緯

令和4年(2022年)、国連食糧農業機関 (FAO) によって、琵琶湖と共生する滋賀県の農林水産業「琵琶湖システム」が世界農業遺産に認定されました。この「琵琶湖システム」の構成要素となっている人々の生業、暮らしや自然環境を知るうえで、琵琶湖博物館は最適な場所の一つです。

ただ、琵琶湖博物館の展示は「琵琶湖システム」の内容に特化した配置をしていません。そこで、琵琶湖システムのことをより深く、理解しやすいかたちで学んでいただけるよう、来館者が展示をめぐる際のサポートツールとして、ルートマップ「- 湖と人が織りなすものがたり - 琵琶湖システム」を作成しました。

このルートマップは、2023年10月から開始した琵琶湖博物館と龍谷大学農学部との地域連携事業として、食料農業システム学科の嶋田大作准教授の協力のもと作成しました。県農政水産部農政課企画・世界農業遺産係の協力のもと、嶋田ゼミの学生たちが「琵琶湖システム」について学び、博物館におもむき展示室を丹念に調べながら、ルートマップで取り上げる展示やコースを練ってもらいました。

お問い合わせ先

ルートマップおよび関連する展示に関すること 滋賀県立琵琶湖博物館 中川 信次
Tel 077-568-4811 Mail: query@biwahaku.jp

琵琶湖システムの内容および関連施策に関すること 滋賀県農政水産部農政課企画・世界農業遺産係
Tel 077- 528-3825 Mail: ga00@pref.shiga.lg.jp